

会 議 録

会議の名称	令和元年度（2019年度）第2回豊中市男女共同参画審議会		
開催日時	令和元年12月3日（火）17時～19時		
開催場所	とよなか男女共同参画推進センター すてっぷ 視聴覚室	公開の可否	☒ 可・不可・一部不可
事務局	人権政策課	傍聴者数	4人
公開しなかった理由			
出席者	委員	倉垣千恵委員、川東光子委員、中村誉彦委員、槇村久子委員（会長） 水島郁子委員、宮前千雅子委員、山中京子委員、前田靖男委員、 宮川勉委員、須戸裕治委員、若柳玉貴委員、小寺貴裕委員、山崎靖彦委員	
	事務局	高橋参事兼人権政策課長、土田主幹（男女共同参画担当）、 工藤男女共同参画係長、廣田主事、釘崎 出口こども政策課長補佐、大石企画調整係長	
	その他		
議題	（1）女性の就労支援について （2）とよなかイクボスプロジェクトについて （3）豊中市における今後の施策について （4）その他		
審議等の概要 （主な発言要旨）	別紙のとおり		

令和元年度 第2回豊中市男女共同参画審議会 議事概要

日時：令和元年（2019年）12月3日（火）17時～19時

場所：とよなか男女共同参画推進センターすてっぷ視聴覚室

【出席委員】

倉垣千恵委員、川東光子委員、中村誉彦委員、槇村久子委員、水島郁子委員、宮前千雅子委員、山中京子委員、前田靖男委員、宮川勉委員、須戸裕治委員、若柳玉貴委員、小寺貴裕委員、山崎靖彦委員

【事務局】

（人権政策課）

高橋参事兼人権政策課長、土田主幹（男女共同参画担当）、工藤男女共同参画係長、廣田主事、釘崎（こども政策課）

出口課長補佐、大石企画調整係長

開会

委員会成立の報告

傍聴者入場

資料の確認

案件1. 女性の就労支援について

事務局： 第1回の審議会の案件（2）「女性の就労支援について」にて、各自治体の先進事例等を資料配付し、議論していただいた。その中で、「豊中市の特性や特徴をふまえていくこと」や、「ニーズをグループ分けしそれぞれに対して支援を提供していくこと」という意見をいただいた。議論の経過をふまえ、今回は資料①～③を参考に、引き続き本市の特性や特徴をふまえた上で各対象別への取り組み内容について議論いただきたい。

事務局より、資料①～③について説明した。

委員： まず、「各年代、項目における取組み対象整理表（資料①-1）」について、ご意見を頂きたい。

委員： 一番就労が必要と見込まれる世代には、既に施策が充実しているが、50歳代以上は不十分のように見える。65歳以上の雇用が非常に注目されており、70歳を超えても働いている方がたくさんいる。豊中市においては、一足先にシニア世代への就労支援に取り組んでほしい。あわせて、育児については支援体制が進んでいるが、今後は介護の問題がますますシビアになる。これについても今後課題として取り組んでほしい。

委員： 私もシニア世代の就労支援が気になる。シニア世代で就労したい・しなければならないとはどのような状況かを考える必要がある。年代的には、配偶者が亡くなる・介護が必要な状態になり、収入が途絶えたというような状況に突然陥ることがある世代である。年を重ねるごとに就職先が少なくなり、半ば働ける仕事など無いと諦める方もいる。また、高齢者の離婚も多くなっている。専業主婦でずっと家事

を務めてきた方が離婚した場合、就労経験は無いが食べていくためには働かなければならない。しかし、何をしてもいいかさっぱりわからない。このような方々を念頭に置いた支援策を具体的に検討してほしい。私の事務所でもこのような方がよく来るので、こういう施策がある、こういう所があると案内する窓口にもなりうる。もうひとつ、「早期就労を予定していない」は就労意欲が無い方のことを意味しているのか。どんな状況が含まれているのかケース分けをしたほうが良いと思う。気にしているのは、心の病で外には出られない、仕事をする意欲がおきていないという方。医療的な対応が必要かもしれないが、そのような方々にとっては体を動かすことで心の病から脱出することにもなりうる。どのように拾い上げていくのかという問題はあると思うが、念頭に置いた施策を検討してほしい。

委員： 直前の委員の発言に続き、シニア世代では非常に元気な方がいる。50～60代で配偶者を先に亡くされた方は年金等だけでは生活は非常に苦しい。きちんとした職に就きたいけれど、そのような経験が無いという方は多いと思う。豊中市の人口比率を見ても高齢者側に推移している。特に女性は長生きなので、シニア層の女性に対する施策に取り組んでほしい。また、具体的な事例で身近に感じるのは、これまで自宅でやってきた料理や掃除などが好きで働いている方は多い。そういう方は独居の高齢者の支援を行っている。そういう支援体制は信頼関係として地元に根付いたほうが良いと思う。また、柔軟性のある働き方を求めている働く世代や子育て世代が高齢者家庭のお手伝いをする、といったニーズはかなりあるのではないか。無理に女性が男性の働き方に合わせるのではなく、それらをこなせる能力を持った女性が豊中市には潜在的に多いと思う。そういった活用ができるような仕組みづくりを市として行っていくのが今後の高齢社会において必要と思う。

委員：「非正規雇用」の欄に「福祉・介護分野のイメージ向上セミナー」があるが、この意味はなにか。

事務局： 非正規雇用に限ったことではないが、どこに分類をするか考えたうえで非正規雇用に当てはまる部分があると考え掲載した。他に就労困難者などにも該当する。

委員： 福祉分野において、豊中市では社会福祉協議会が取り組む、シニア世代の男性や子育てを終えた女性が就労ではないが地域のお世話役を担い活躍している状況との連携を取っていくことが必要。また、福祉介護分野は人手不足だが、実は短時間でもできる仕事はたくさんある。その点も調査研究を行い、マッチングをしていくことができると思う。介護が必要な方のニーズ増もふまえ、短時間労働のニーズ調査を行えば、もう少し様々な意見が出でくると思う。福祉・介護分野は女性が今までしてきた家事などのキャリアが活かせる場であるということも念頭に置いていただきたい。

委員： 私の介護施設は人手不足である。人材として一番豊富なのがシニア世代で、一番応募があるのは60代で、70代の方もいる。これまでとは違い、70代でも面接を実施し採用もしている。18年前から介護施設を運営しているが、開設当初は70代の方が働いているという事は想像もつかなかったが、今は従業員の10%を超えている。60代も含めると、20～30%になる。介護分野は生活全般のお世話をする仕事で、女性は今までの経験を非常に活かせる場なので活躍してほしい。施設側も重介護が無いようリフトなど福祉用具を導入し、60～70代の介護者でも寝たきりの方をベッドや車イスに移乗が可能だ。施設側も様々な工夫をして様々な世代の方が働ける環境を作り、それをアピールするようにしている。専門的な介護や介護補助は仕事の仕分けをし、介護補助の方やシニア世代の方でも十分に活躍できる場を作っている。これを知ってもらい、私でもできるかなと思ってもらうことが大切だ。今度、「シニア世代でも活躍できる介護の仕事」をテーマにハローワークでセミナーを予定している。当施設でもシニア世代の方がたくさん活躍しているので、60～70代で未経験の方でも働けると伝えたい。企業側も工夫をし、60～70代の方が働ける場

を作っているということを伝えることが大切だと思うし、そのような場がたくさんできればいいと思う。

委員： 女性の多くが非正規雇用なので、これに対する施策が大切だが、資料によると非正規雇用に対する取組みは「未実施」となっている。正規雇用の枠が増えないということが前提となると、非正規雇用のままの方が多くなるので、その方に対してのセーフティネット情報や相談先の提供をし、今ある生き辛さを解決に導く必要があると思う。

会長： 次に「女性活躍に関する取組状況調査（資料②）」について、ご意見を頂きたい。

委員： 実務担当者会議を開き、4 課合同で取り組んでいるのは心強いと思った。産業振興課の資料（資料②-3）が注目すべきで、全国の住宅都市と比較して子育て層の労働力率が低いという課題が見えたのは非常に重要なことである。豊中市で子育て層の労働力率が低いのは、おそらく短時間か自宅の近くで働きたいというニーズが多いからだと思う。女性が働きやすい環境整備など様々な手段を検討し取組みを進めてほしい。

委員： こども政策課の資料（資料②-2）の「ライフデザイン支援出前講座」は、単発か順次テーマを変えているのか、どのように行われているのか。

事務局： こども政策課では、結婚から育児まで切れ目ない支援ということで、平成 27 年度からこの出前講座を行っている。子どもたちが結婚や家庭を持つことに前向きな気持ちになれるよう、色んな生き方があるということを知ってもらう機会の提供を、主に高校生対象に授業を行っている。テーマは赤ちゃんとのふれあいや食育など色んな切り口から事業を展開している。

委員： このような取組みは非常に重要で、勉強する目的が無く学校に行く子どもが多くいると感じている。将来何になりたいとか、社会に貢献したいという事も大切だが、今の子どもたちには自分たちが大人になって生活していくという生活感があまり感じられない。今の子どもたちは豊かで、欲しいものが先に目の前にあり、生きる意欲が逆にならないように感じる。しかし、そんな子どもたちにも現実的な暮らしが将来待っていて、生活に根ざした大人になるとはどういう事が教える必要があるが、核家族化が進むにつれてそれを教える大人がいなくなったように思う。色んな大人の中で育った子どもはいろんな人生を見てくるが、自分の親しか知らない子どもが増えている。このような状況からすると、高校生のようにきちんと考えられる年代に暮らしや食の大切さについて学ぶことは重要だ。専門家を交えて資料等を作るなどをし、この取組みが継続していけば豊中市の若い世代から浸透していくと思う。

委員： 資料①-1 について、各事業者の問題として人手不足が大きくある。現在、外国人労働者を雇用する中小・零細企業が増えてきている。そこで商工会議所では外国人労働者の雇用方法についてセミナーを開催している。このような状況のなか、仮に女性活躍に絞ると外国人労働者はどうなるのか、バランスが悪くなるように感じる。また、同資料に「雇用のミスマッチの解消のためのニーズ把握」があるが、ニーズの把握というよりはなぜマッチングができていないのか、あるいは、誰もしていないのか、というところに焦点を当てるべきだと思う。これをふまえて、産業振興課の資料（資料②-3）にある、「とよなか起業・チャレンジセンター事業業務」をはじめとする 3 つの事業は、起業をすることが目的で、マッチングではない。また、課題・取組の方向性では、「全国の住宅都市と比較して、子育て層の労働力率が低く、労働参加が進んでいない」という課題に対して、「女性が働きやすい環境整備」とあるが、本当に豊中市は働きやすい環境が整っていないのか。もし、本当にそうであれば、整備していく必要はあるが、その前に大切なのが、豊中市は中小・零細企業が非常に多く、環境整備を実施したくてもできず、その余裕のなさから女

性よりも外国人労働者を雇いたいという状況にある。そうすると、こちらのほうが大きな問題なので、これについても考えていただきたい。

会長： 職場のイメージとして、どちらかというと女性はオフィスを想像する。その中で、企業がどのように職場のイメージや実際の働きやすさを子育て層に PR していくのかという問題と、一方で外国人労働者の問題もある。この両方を考えていく必要がある。

委員： これまでの議論の中で、女性が今までの経験を生かせる、生活やケアの分野で働く道を開いていくという話があったが、これからは今まで女性の仕事と思われていなかった分野を切り開いていく必要があるし、そのような分野で人材不足が起きている（林業や運送業など）。そこで、こども政策課の事業の「ライフデザイン支援出前講座」で、性別に関係なく自由に様々な分野が選択でき、未来予想図が描けるというような講義をしていただきたい。

委員： 広報とよなかについて、ここには非常に多くの講座が掲載されていて、他市と比べても、これほどの情報を掲載している広報はあまり見ない。女性活躍に関する情報についてもすべて網羅してあるが、もう少し PR してほしい。また、全体的に内容が多岐に渡りすぎているので、もう少し絞ったほうがいいと思う。市民としては非常にいい冊子だと思うが、強調するなど工夫をして上手く掲載すれば、市民に対する告知がもっと行き届くと思う。イベントは素晴らしい内容なので上手く生かすような掲載をしてほしい。

会長： 次に「子育て・子育て支援に関するニーズ調査（豊中市）（資料③-1）」について、ご意見を頂きたい。

委員： 「①母親の再就職希望」が「働きたい…85%（就学前）」とある一方で、「③・⑤パート・アルバイトで働きたい…50.5%」という結果がでている。金銭的に不自由なく生活をしていて、生活意識として、お金を稼いで生活をするというよりも子育てを満喫するライフスタイルを選択しているという風に読み取れる。子育ての社会化も必要だが、子育ての大切な時期に自分で育てたいという方に対しては、そんな選択肢があってもいいと思う。

委員： 若い世代で働きたい母親は多くいる。平日は学校があるが、休日に子どもを預ける場所がなかったり、祖父や祖母など家族の協力が得られない家庭がある。求人情報は多く出ているが、働ける時間帯が限られているので募集する時間帯に入れないという話も聞く。家庭の事情によりアルバイトしかできなかったり、子どもがまだ小さいから正社員になれない方もいる。数字だけで判断するのは少し疑問がある。

委員： 「⑥平日に子どもと過ごす時間…母親 12 時間以上、父親 1～2 時間」という結果がある。先ほどの委員の発言にもあるように、女性が選択肢を強いられていることもある。女性の条件整備と同時に、父親が子どもと過ごす時間が少ない現実を変えない限り、女性自身の子育てや就労に関する希望が実現しないと思う。また、「②父親の帰宅時間…22 時以降 27.3%」という結果で、子どもたちが寝ている時間に父親が帰って来て更に早朝に出勤すると父親とこどもが一言も会話せずに一日が終わることになる。この結果から、極端に女性に負担が強いられている現実が豊中市で起きているのが見えてくる。働き方改革が推進されるなか、企業の取組みの成功例等をこども政策課が実施しているような出前講座で若い世代に発信していくことは大切だと思う。働き方の工夫次第で性別に関係なく子どもと時間を過ごせるというロールモデルを発信していかないと、現社会が疲弊しているなか、綺麗ごとを並べても若い世代に希望を与えることができない。また、ひとり親ではこれまで議論してきた課題を一人で担うことになる。このような状況では、親と子どもが一緒に過ごす時間が皆無ではないかと危惧している。

委員：親と子どもが過ごす時間に関して、大阪府でも調査しているのでデータの比較等参考になると思う。子育てを満喫したいと考えている父親もいると思うが、そのような働き方ができない状況にあると思う。男女別で子育てにどのように関わりたいのか調査結果があれば本音が見えてくる。日本の経済的な状況からも子育てを満喫できるような働き方は難しく、中小企業では更に厳しくなる。そのような状況ではあるが、性別かかわりなく子どもと時間が過ごせているような実例があれば、紹介する機会があるといいと思う。

会長：女性活躍推進により、女性もこれまでの男性並みに働くようになりつつあり、女性側も今までとは違うしんどい状況に置かれている。また、日本の育児に関する感覚として、全てを自分・家庭の中でする傾向にある。限られた時間の中で寝る時間を削って育児をするのではなく、色んな外部のサービスを利用できるような時代になってきているので、そのような育児に対する思い込みを無くしていく必要もある。

委員：「⑦仕事と子育てを両立させる課題」で、不測の事態に子どもを看てくれる人がいない方が50%もいる。豊中市には転勤等で移住してきた方が多く、両親が身近にいないことが多い。企業側にも、不測の事態に対応できるような仕組み（理由のいらない有給休暇等）があれば、「③・⑤のパートアルバイトで働き続けたい」の数字も変わると思う。市としては、地域のコミュニティを支えるような企画や拠点を整えてほしい。また、広報とよなか自体はいいものであるが、それぞれの企画の開催場所が不便な場所が多い。駅周辺の空きビルを活用するなどしてほしい。興味がある講座があっても行きにくい方は多いと思う。仕事と育児の両立に係る拠点を交通の便のいい場所にし、地域でサポートするような仕組みを構築していく手助けを市で考えてほしい。

委員：資料3-⑤で、豊中市は吹田市と比べて、生活保護世帯数がかなり多い。さらに、ひとり親の方も多い結果が出ている。豊中市では、このような方々と、女性が働かなくても生活ができる家庭との二極化が進んでいると思う。また、資料①-1において、「ひとり親」の「シングルマザー向け支援（相談・就労支援講座）」が行われていて素晴らしいと思う。これ以外にも、ケアに関する取組があれば明記してほしい。取組みが無いのであれば、だれも取り残さないケアに関する支援をしてほしい。

委員：現実の調査結果として、女性が活躍している企業は収益が高い傾向にあると発表されている。中小企業で実施できるかという問題はあるが、そのような事実を広く発信していき、企業側にもメリットがあることを知ってもらう必要がある。

案件2. とよなかイクボスプロジェクトについて

事務局より資料④-1に基づいて、プロジェクトの概要を説明。

会長：プロジェクトの結果、どのような成果が得られたのかが大切。得られた成果に対してフォローアップやその先の展望はあるのか

事務局：案件1で紹介したような、既に実施しているアンケート調査等と紐づけながら、成果の分析を行っていきたい。

会長：ぜひ、課題や成果が分かるよう分析していただきたい。

委員：企業側へのアンケート調査を行う予定はあるのか。

事務局： 実務担当者会議の中で、企業に対するニーズ調査の実施を予定している。

案件 3. 豊中市における今後の施策について

事務局： 今期第 8 期の審議会の任期は平成 30 年 1 月 20 日から来年令和 2 年 1 月 19 日までで、今回の第 2 回審議会が今期のメンバーでの最終回となる。そこで本市における各施策について、各委員から今一度、ご意見をいただきたい。また、これらに関するものでなくても、広く男女共同参画施策に係るものでも構わない。

委員： 「平成 30 年度（2018 年度）第 2 次豊中市男女共同参画計画改定版・第 2 次豊中市 DV 対策基本計画」において、「女性委員のいない審議会等の数」ゼロを目指して取組んできたと思うが、ほとんど減少していない。また、ゼロではないがほとんど女性委員がいない審議会もあると思う。もっと本格的に取り組んでほしい。また、「豊中市議会議員の候補者に占める女性の割合」については、これよりも「豊中市議会における女性議員の割合」にしたほうがいいと思う。目標値も「豊中市議会における女性議員の割合…50%」と設定したほうがいいと思う。また、「市の男性職員の育児休業取得率」の目安値が 5%以上というのは低すぎる。なぜこんな低い値で設定しているのか。豊中市役所内に、男女共同参画に対する課題があるように思う。

委員： 審議会は時代とともに活動内容が見直され、柔軟に対応していくと思う。今後大きな課題になると考えているのが①高齢者のケア②若年層や外国人への支援③LGBT へのケアである。この 3 つについて注目していきたいと思う。

委員： 男性の家事・育児参加に関する実態調査 2019（連合）（資料③-3）において、調査の対象者が 25～49 歳の有職男性であり、「仕事と育児の両立が理想」が 62%で、「実際に両立している」が 30.4%、更に「育児休業を取得したかったが、取得できなかった」が 30%という結果が出ている。この方々の力はものすごく大きいと思う。また、男性の育児休業取得率を上げるために必要だと思うことに、男性の育休取得義務化を求めている方が 57%もいる。労使いずれも不安な気持ちにならないよう国全体の取組も求められるが、現場から要求していくことが大切だ。また、内閣府の調査（資料③-2）において性別役割分担意識に反対という方が 60%という結果が出ている。この考え方に基づいた施策が大きく動くと感じている。

委員： 介護の分野だけでなく、どの分野でも人材不足なので、いろんな方が活躍できるよう職場環境を作る企業側が変わっていく努力が必要だ。「とよなかイクボスプロジェクト」においても、広報活動をしっかりと行い、色んな分野で働く環境が整っていけばいいなと思う。介護分野でも女性を中心に色んな方々が働きやすい環境を作っていきたいと思う。

委員： この審議会では多くのことを勉強させていただき感謝している。資料①-1 で、「マミートラックの防止」が気になった。働きたいけど働けなかったり、やめざるを得ない状況などの問題がある。今後、マミートラックの防止に対して検討してほしい。

委員： 事業を営んでいる方々の立場からその実態に沿えるよう、この審議会に参加してきた。企業が変わらないと現実是不会変わっていくが、企業側も変わりたいと思っていないわけではない。様々な要因があり、苦しい戦いを強いられている状況にある。昔から続く就労体制を変えることは簡単ではないが、若

い世代に期待しているところも大きく、そのために我々が働く環境を整備していくことが大切。

委員： 審議会全体として男女が平等に働くことを理想とする中、やはり女性と男性では身体の仕組みが異なるので、私は皆さんと違う角度から意見を述べてきた。女性の健康を守るという意味で、働き方改革が良い方向に進めばいいが、何となく今までの男性の働き方に合わせていて、女性に仕事と家事の負担が強いられているように感じる。女性ならではの身体の不調など、男女は一緒ではないという事を伝えたかった。市においてはこの点についても考えていってほしい。

委員： 「男女共同参画」と「福祉」を繋げるような意見を出せればと思い参加してきた。豊中市では2018年に待機児童ゼロを達成し、その努力はすごいと思う。また、ファミリー・サポート・センター事業でも積極的に取り組んでいると思うが、情報が取りにくい方々に対して上手く伝わっていないのではないかと懸念している。縦割り行政ではなくなってきたと思うが、男女共同参画と福祉では少し別の所にあるように思う。また、女性活躍に対する支援が多くあるのに、その情報提供が少ないように思う。たくさん整えてきた中で、まだ整っていないところについて考えていってほしい。

委員： 色んな改革が進み、男性が家に帰る時間が早くなるのは良いことだが、それだけではなく、男性が家事ができるようになる教育が必要だと感じた。

委員： 労働分野における多くの審議会は、公益、労働者側、使用者側の3者構成であるが、公益委員の女性割合が高いのに比べて、労使、とくに使用者側はそうではない。審議会の場合に女性の委員が選出されるよう使用者側は努力して欲しいと思う。

委員： DVの被害者支援は暴力を受けた直後の支援で終わりがちだが、被害者にとっては中長期の支援が重要だ。相談に来た被害者に事後アンケートを実施することを勧める。アンケートが返ってこない事も多いが、返してくれる方の声から足りない支援の気づきや今後の展開にも繋げていけると思う。また、DVには様々な問題が複合的に関わっているので、相談員の研修や人員体制においても工夫して欲しい。

委員： DVCについて、継続的に支援の質の向上に取り組んでほしい。DVCだけではなく、各課が連携していくことが必要であると同時に、それぞれの支援の担い手の意識も変えていく必要がある。

案件4. その他

今年度のスケジュール予定を説明。